



令和3年  
11月1日

# 学校だより

小野市立中番小学校  
校長 田中 康善

## 修学旅行。秋晴れの二日間。 新たな発見！新たな一歩！

★「子供達の学びを止めない」方針と出来得る限りの感染対策のもと無事実施できました。

10月、大きな教育活動（行事）を無事、終えることができました。その教育活動は、6年生の修学旅行（10月12日・13日）です。9月末日まで緊急事態宣言が延長された時は、多くの市町の修学旅行中止、延期が報じられていましたので、実施できるのかどうかを大変心配しました。しかし、小野市では、対策を講じた上で、「子供達の学び止めない、出来得る限り通常の教育活動を」という方針のもと、出来得る限りの対策を講じ、実施できましたこと本当に嬉しく思います。6年生の子供達にとっては、小学校最大の行事とあっていい活動です。多くの方にとっても小学校の修学旅行の思い出は、今も色鮮やかに、大切な思い出として心に残っているのではないのでしょうか。

今回の修学旅行では、6年生の子供達に達成して欲しい目標3つを話していました。それは①学ぶべきことは学ぶ②自分の役割・責任を果たす③友達との関係を再構築する、この3つです。①は、日本が誇る世界的にも価値ある文化遺産を見ることが、つまり、本物に触れるということ。②は、学校という場所でのような学習を行う場合、必ず、自分の役割・仕事は必ずついてきます。その時、自分の気が向く、向かない、したい、したくないということは関係がないことを

自覚し、その責任を果たすことに全力を尽くすことです。このことは当たり前と言えども当たり前です。しかし、その時の気持ち、雰囲気によって、流されることがあります。その時、自分の責任を果たせるかどうかは、人として大切な力だと考えています。③は、本校は、各学年一クラス、クラス替えはありません。ある意味、仲間のことをよく理解しあっているとも考えられます。ただ、見方を変えると固定化されるといってもあります。友達との、仲間の新しい面に気づく、発見するといえることができにくい状況かもしれません。でも、寝食を共にし、一緒に活動することで、新たな気づきを得られることがあります。仲間と過ごす時間はかけがえない時間です。また、この修学旅行では、添乗員さん、運転士さん、ガイドさん、救急員さんには、本当によくしていただきました。どの方も誠心誠意、この修学旅行が子供達にとって最高のものとなるよう心を砕いてくださいました。本当にありがたかったです。そして、何より、子供達がその思いに素直に、誠実に、応えてくれたこと、大変嬉しく思います。6年生の心に、色褪せない修学旅行の思い出が心に刻まれたことでしょう。

## 断崖絶壁！挑戦、その先へ。

★自らの未来の為に、人生の主人公となる為に…。

11月、早いもので2学期も後半戦へと入ってきました。2学期は活動の季節、正に、実りの秋です。多くの教育活動は、ある意味、

子供達の前に立ちほだかる断崖絶壁だと考えています。人は、困難に直面した時、その真価を問われます。難しい問題があると、何もできず、立ち止まってしまふ、そんな子供達がいまいます。その背景には、不安や心配、失敗を恐れる気持ちが先行してしまふのかもしれない。しかし、何もせず、ただ、手をこまねいていても何も始まりません。状況は、一向に、何も、変わらないのです。まず、一歩を踏み出す勇氣を持ちたいと考えます。今、子供達の前に「予測不可能な未来」が広がっています。その未来を生きるのには、誰か。そして、その未来を創るのは誰か。“no rain, no rainbow”という言葉があります。雨がなければ虹を見ることができないという意味です。課題の苦しさに対して、心配や不安、不平や不満を口にするだけでは、その解決には繋がっていきません。その課題に、自ら、勇敢に、果敢に、挑戦し続け、見据えたその方向に、その先に、輝く「虹」見つけたいと考えます。未来は、只、じっと待つものではなく、自分事として捉え、自らがその未来を創っていく。誰もが、一人一人が、人生の主人公となる為に…。そんな姿を子供達には強く求めたいと考えています。

どんな時もあたたかく見守り、ご理解をいただいている保護者の皆様、地域の皆様の惜しみないご支援とご協力に感謝申し上げます。「今日も学びたい、明日も行きたい。」そう思える中番小学校の実現に向け、今後もしっかり取り組んでいきたいと思えます。中番小学校は、この地域とともに在り、地域の皆様と一緒に歩んでいきたいと願っています。